名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、協力は強力

例会場　名古屋クレストンホテル　TEL　052-264-8000
例会日時　木曜日　12:30
クラブ会報広報委員長　二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認　1995.3.28
会 長　安江英雄
幹 事　後藤 敞

事務局　名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL　052-263-1324
FAX　052-263-0730
Email　seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP　http://rc.nagoya-seinan.org/

第576回例会　No. 36　平成19年4月12日(木)　晴

ふれあい例会＝イルカ作業所の皆さんと共に＝

■ ロータリーソング	「我等の生業」
■ 出席報告	会員49名中14名出席
■ 出席率	68．89％　出席計算人数45名
■ 修正出席率	3月22日　95．56％
■ ゲスト	イルカ作業所の皆さん　53名
■ ビジター	東京銀座RC　常磐津文字兵衛さん
(4/12 受付)	以下13名

ふれあい例会の風景

名古屋港ワイルドガーデンブルーボネットにて

第575回例会　No. 35　平成19年4月5日(木)　晴

第8回クラブフォーラム/クラブ会報広報

■ ロータリーソング	「君が代」「我等の生業」
■ 出席報告	会員49名中36名出席
■ 出席率	80．00％　出席計算人数45名
■ 修正出席率	3月22日　95．56％
■ スピーカー	二俣景一さん
	ロータリー財団奨学生　寺嶋孝光君
■ ビジター	東京銀座 RC　常磐津文字兵衛さん
■ バナー交換	本文参照　(寺嶋孝光君)

会長挨拶　安江英雄

桜の季節になり、山崎川畔の桜も今は満開になってまいりました。桜は、夏に花芽が成長し、秋に休眠に入ります。冬に入りますと、休眠打破という現象が起き、“いつまでも眠っていてはいけませんよ”と呼びかけが始まり、春先になると花芽の成長が始まり、開花するわけであります。

夏	秋	冬	春	
花芽成長	休眠	休眠打破	花芽成長	⇒ 開花

今年のように、春先に暖かい日が続きますと、いつまでも眠っていて、花芽の成長がおくれるわけです。鹿児島より緯度の高い東京のほうが早く花が咲いたのは、このような現象が起きたからです。桜切るばか、梅切らぬばかということわざがありますが、果物の梅、桃、柿、ぶどうなどは、冬に花芽がつくため、秋には枝を切り落とし、春に開花させるわけです。

なにはともあれ、私もいつものんびりと休眠していて、なかなか人間的に成長できませんので、ここらで休眠打破して、少し大きくなりたいと思っています。

※写真の花は 4/12 ふれあい例会ブルーボネットにて

撮影:西川博さん

４月の祝福

誕生日		結婚記念日
１日	川原さん	
５日	河原さんご夫人 森田さんご夫人	
６日		丸山さん
８日		藤野さん
12 日		大平さん
15 日		鈴原さん、松尾さん
20 日	林さん	
22 日	日下さん	
24 日	森さんご主人 岩田さん	後藤晋児さん

ニコBOX

●ロータリー財団奨学生の寺嶋孝光君、お帰りなさい！今日は報告よろしくお願い申し上げます。　安江会長、藤野、水野、長谷川千廣、磯部、岡田、近藤（敬称略）

●本日のクラブフォーラムは「クラブ会報広報」です。二俣景一委員長、宜しくお願い申し上げます。　後藤幹事、日下、岩田、浮貝、加藤、吉田、松尾、河原、鈴原、和田、西川、大林（敬称略）

渡邉さん　長谷川千廣さん、お世話になりました。感謝。

林さん　ゴルフで優勝させていただきました。皆様のお陰です。

川崎さん　お久しぶりです！またヨロシク！（長期欠席しました）

池井戸さん　２ヶ月、仕事の都合で休みました。

中川さん　藤野さん、お忙しい中白鳥方面でお力をお借りしました。本当に有難うございます。

森さん　今日は大学の入学式で参加してきました。

二俣さん　本日宜しくお願いします。

川原さん　今月は私の誕生月です。お祝いを有難うございます。

●春の健康感謝ニコニコDay　池井戸さん、川崎さん

本日合計　74，000円

第8回クラブフォーラム「クラブ会報広報」

委員長　二俣景一

◎原稿は割愛させて頂きます。

ゴルフ会表彰

平成19年4月4日(水)
グレイスヒルズカントリー倶楽部

順位	氏名	GROSS	HD‘CP	NET
優勝	林　　昌義	88	14.0	74.0
2	松尾雄二郎	98	23.0	75.0
3	矢野　雄三	101	26.0	75.0
4	西垣美千子	102	26.4	75.6
5	中村　昭夫	97	19.0	78.0

次回Ｈ’cap

林　昌義　　11
矢野　雄三　　23

卓話「ロータリー財団奨学生　報告」

2005-06 年度　ロ-タリー財団奨学生　寺嶋孝光

05-06 年度ロータリー財団国際親善奨学生の寺嶋です。2006 年２月から1年間ニュージーランドの首都ウェリントンへ奨学生として派遣され、無事帰国することができました。

あちらではロータリーを通じて様々な人に巡り会え、とても充実した日々を過ごすことができました。

学業ではビクトリア大学ウェリントン校に在席し、無事修士課程をメリットという評価で卒業することができ、その結果にも大変満足しております。

このようにプログラムに参加したからこそ体験できたことが多くあり、この経験ができたのも西南 RC がホストクラ

ブとして推薦してくださったおかげです。あらためてこの場をお借りして感謝したいと思います。
今後は教員として現場で英語教育に携わっていくわけですが、このニュージーランドでの経験を活かして、またさらに活躍の場を広げることができたらと考えております。

● 寺嶋孝光さんが交換した現地のRCバナー。
上段 左端から
KARORI RC
WANGANUI RC
Mount Victoria Inc RC
Porirua Sundown RC
下段 左端から
STOKES VALLEY RC
Carterton RC
PORT MICHOLSON RC
EASTERN HUTT RC
PETONE RC

『友』インターネット速報 2007年4月10日 No.280
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

はるか彼方の海岸へ病院航行を支援

最先端技術をもつ病院が、世界で最も貧しいリベリアの何千もの患者に無料で医療を施すために、海路でもうすぐ到着します。
リベリアのモンロヴィア海岸に今年の夏到着予定の世界最大級の病院船の一つである Africa Mercy 号は、世界中のロータリアンの支援を得て、イギリス・ニューキャッスルを出発しモンロヴィア港への処女航海を終えるでしょう。2 年間でイギリスとアイルランドのロータリアンたちは、6,250 万ドルを寄付して、6 つの手術室、歯科診療所、80 床ある病室、医療スタッフとボランティアのための 500 客室を設置、さらに寄付した約 140 万ドルで、眼科の治療を可能にする設備や、約 40 か国の人と交流できるラウンジを作りました。
アメリカ・フロリダのジャクソンビルロータリークラブのロータリアンも、単独のクラブでは最も多額な 28 万 5,000 ドルを寄付しました。同クラブでは、ロータリー財団のマッチンググラント 15 万ドル受けて、約 50 万近くを寄付しています。

『友』インターネット速報 2007年3月27日 No.278
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

ロータリアン・ビデオ・マガジン第2巻第2号発行

今回のロータリアン・ビデオ・マガジン（RVM）では、アメリカ・インディアナのロータリークラブの支援により、アメリカで心臓手術を受けることとなったイラクの少女のことや、ロータリーのポリオ撲滅運動に関して、全国予防接種日（NIDS）やポリオ患者のリハビリの様子の様子をその歴史とともに紹介しています。そのほか、ビル・ボイド国際ロータリー（RI）会長と国連代表ジャン・イグランド氏との対談を収録しています。
日本語の字幕がついたDVDもありますので、どうぞご利用ください。近日入荷予定（2007年4月以降）ですが、ご予約を受け付けています。1枚15ドル。
日本事務局資料室（電話：03-3903-3194 FAX：03-3903-3781）まで、お申し込みください。

職業奉仕卓話
「原点回帰 ＝その精神を受け継いで＝」
（3月29日例会卓話）

第2760地区パストガバナー **加納 泉**

私は今年79歳です。来年80歳。いつまでもロータリーでこき使われるのはと思っていたのですが、今年はIMで原点回帰というテーマだそうでして、古きを思い出して新しきを知ると言うことでしょうか。シンポジストとして選ばれまして、そこでおしゃべりをしたことが皆様の机の上にコピーしてあります。IMの報告書の中に私の要旨もきちんとかかれております。ご参考にしていただけたらと思います。
今日家を出る時になにげなくカンボジアのクメール織りのネクタイをしてまいりました。そうしましたら、このクラブがカンボジアに毎年御支援をいただいているということで、大変なところに学校を寄付したり救急車を寄付したり。そのご奉仕に実は驚いたのです。
昨年の暮れにアンコールワットを訪ねようということでシュヌリアップへ行きました。行く前はやはり交通が不便だし食べ物も悪いしということでかなり覚悟していましたが、今のシュヌリアップは世界の観光地でありまして、立派なホテルが十何件も並んで、これはフランス系のホテル、ここはイギリス系、イタリア系、タイ系、中国系と資本別に並んでいてそれぞれの特徴をよくだした大変な観光地でした。行っているお客様も日本人はほんの 10%程度でして、アメリカ人もイギリス人もフランス人も東洋の中国から、それからコーリアの人もたくさんいました。本

当に今のカンボジアは観光立国だと思いました。
あと驚いたことに、アンコールワットという建物は今から1300年前のものですがよく考えてみますと、日本の東北にある中尊寺の金色堂が建てられたのと同じ年頃のものなんです。ですから日本でも当時の文化としては金色堂を建てる程の技術を持っていた国でした。ただアンコールワットは石の文化ですから、山から切り出した大きな石をお寺の高いところまで積み上げるという技術はたいしたものです。
崩れた経堂というお経をしまっておく建物がありました。それや色々な所を各国が援助して造り直している。日本が援助して造った経堂が一番最初にできて、アンコールワットに向かって右側の経堂は日本の援助によってレコンストラクション、再建された、きちっと建て直したものが残っております。石をまた積み上げて沈んだ所、落ちた所を修復したということです。大変良い所ですから是非また皆さんもおそろいでお出かけくだされば と思います。
今日は斎藤ガバナーの方針である原点回帰ということについてお話し致します。原点回帰とは何かというと、最近ロータリーは怠惰に流れる傾向にある。もうちょっとロータリーの原点を考え直していこうではないか、というのが今の斎藤君の考え方であります。
そういうことを言っているのはタイ出身のビチャイ・ラタクルという人で、タイで内務大臣をやりました方がRIの会長になりました。（※2002-03 年度）その人がなかなか論客で、たとえば例会を毎週やらずに2週間に1度にするとか3週間に1度にするとか、もっとラフにしろとか、あるいはインターネットで登録すれば出席免除になるとか、ということを言い出すと「ロータリーって何だ」ということになってしまう。そんなのはロータリーではない。ロータリーというのはもっと厳格であるべきだ、ということを現在もしきりに言っておられる。
ビチャイ・ラタクルさんはアジア人で我々も親しいです。「ロータリーは少し規律というものを重んじて、人間修養の場であるという自覚を持ちたい」というのがラタクルさんの考えであります。いわゆる原点回帰という言葉の語源は、ビチャイ・ラタクルさんが最近言い出したものであります。それについて解説を加えながらお話しをしていきたいと思います。
もし何千人ものロータリアンに「ロータリーとは何ですか」と聞くとその答えは何千通も返ってくると思います。
「もしロータリーが寛容で、より他人の良さを認め、より他人と親しく交わり、助け合おうとしてくれるなら、そして人生の美しさと喜びを発散し伝えてくれるようにしてくれるならば、それが我々の求めるロータリーの全てである。それ以上ロータリーに何を求めることがあろうか。」と言ったのはポール・ハリスであります。
ロータリーは創立以来100年が経ちました。この前ロータリーのプログラムが色々変わってきました。特に最近はクラブリーダーシッププランということを言い出しています。クラブリーダーシッププランというのは皆さんもうお耳に届いていると思いますが、あくまでオプションであります。ロータリーの本部からクラブリーダーシッププランをやりなさいとはひとつも各クラブに言ってないのです。採用してもしなくてもよい。ですけども、その中で言っていることは次の4点を言っています。
一番目は、メンバーシッププラン。会員の増強を図りましょう。
二番目は、公共に対するイメージアップを図りましょう。いわゆるロータリーの広報活動をしっかりしなさいということ。
三番目は、ロータリー財団に対する寄与をもっと大きなものにしてください。
四つ目は、ロータリーの色々なプログラムについて各クラブでよく検討してやってください。
以上の4点であります。この4点を振り返ると、ロータリーというのは従来四大奉仕、ここに哲学があってこの四大奉仕を中心に我々ロータリーは発展してきたのであります。
この新しいクラブリーダーシッププランについては、かえってロータリーを弱体化させるのではないか。ということをラタクルさんは心配するわけです。ロータリーの基本から外れているのではないか。こういうことをやっているから世界的にメンバーの数も減るし出席率も低下するのではないか、というのがラタクルさんの警告なのです。組織を運営するやり方の変化というものをもう少しロータリーの指導者達は考えてくれるべきだ。特に新しいクラブリーダーシッププランの中に職業奉仕については何も触れられていないのであります。職業奉仕というのはロータリーにとって最も大切なものでありまして、皆さんもご承知のように4つのテストを唱和しこれを実行しようとして皆様が日々心がけておられます。職業における倫理性を高める必要性というのは我々ロータリアンに最も要求されたことであり、倫理的水準が落ちることが若いメンバーにロータリーに対する威力を失わしめているのではないか、と憂う人も多いわけです。
世の中の人々がロータリアンに対する尊敬の念を高める事が大切であります。たとえばカンボジアの地雷を撤去するとか、ポリオ撲滅運動を世界的に繰り広げるとか、インドネシアの津波の災害復興に貢献することなどは世界中から褒められたことであります。今ロータリーは100年の歴史を経て第二の世紀に入らんとしております。ロータリーの持つエネルギーと信念を活性化して、ロータリーバッチを胸につけることに誇りを持って、人間に人類に対して何か良いことをする責任があるのではないかと思うことが私の信念であります。
ロータリーの基本について考えてみたいと思います。ロータリーは、人の為に役に立つことを英語でサービスと呼んでいます。ロータリーはサービスをもって人間活動の根本的な概念にしたいという運動であります。これはとても大切なことであります。ロータリーはサービスをもって人間活動の根本的な概念にするという思想なのであります。サービスは思いやりの精神でありまして、自分の身近な所から始めたらよいと思っております。家庭から職場からそして地域社会からそして発展途上国までそのサービスを及ぼしていけば理想であると思います。
ロータリアンの間の友情。ロータリアンとしての友達と

しての信頼性とこのサービスの精神。この2つがロータリーの基本的概念であるととらえられています。ロータリーの目的とはなにかということですが、社会奉仕や国際奉仕の部門で立派な成果をあげてきました。特に 1985 年以来とりくんできましたポリオ撲滅キャンペーンは人類に大きな貢献をしてきたのであります。世の中にはロータリーと同じような善意に基づく慈善団体や奉仕団体は他にも多く存在します。しかしこれらの団体の中にあってロータリーは他の団体とは画然とした違いがあります。それがロータリーの本質であり原点というべきものであります。

オブジェクトオブロータリーの中でそのことははっきりと言っております。『ロータリーは有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し育成する』というものです。実際にこれがただ一つのロータリーの目的であって、ロータリーの唯一の目的は有益な事業、職業の基礎に奉仕の理想を据えるということであります。すなわち自分の職業の倫理性を高めそれを通じて世の中に貢献することだと思っています。ポール・ハリスは亡くなる前に、「ロータリーは古くから存在する道徳律を現代生活、我々の職業生活において、それを実践することに他ならない。すなわち古くから有る道徳律を我々の現代生活の中で実現することがロータリーである。」と言い残して亡くなったと言われています。

ロータリーのいわゆる哲学というものが何かということを考えてみますと、皆さんご存知の決議 23-34 が最もよく表していると思います。ご承知のように決議 23-34 というのは1923年大正12年ですから随分古いんですが、大正 12 年の国際大会で採決された、奉仕に対する方針であります。そこで言っていることをもう一度読み直してみますと、ロータリーは一つの人生哲学であります。それは利己的な欲求と義務並びにこれに伴う他の人の為に奉仕をしたいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげよう、というものであります。この哲学は超我の奉仕の哲学であり、最もよく奉仕する者、最も多く報いられるという実践倫理の原理に基づいたものであります。他人のためにも奉仕したいなという気持ちと、自分の私利私欲との間に存在する谷間に存在する矛盾を埋めようとするものがロータリーの哲学だと言っているわけでございます。

ロータリーとはこの奉仕の哲学を取りいれて次の4つのことを実行する人達の集まりであると言われています。何を要求するかといいますと、

第1は、奉仕の理論は職業及び人生における成功と幸福の最も基礎的なものであるということをロータリークラブに来て学ぶこと。人間の成功と幸福の最も基礎的なものは他人に奉仕をするということである、という理論が一番大切であるということをロータリークラブで学んで欲しいと言っています。

2番目は個人の間においても地域社会においてもその実例を示すことが大切。

3番目には各個人がこの理論を自分の職業及び日常生活において実践すること。

4番目はこれらの思想及び実行を広く社会の人に伝え、良い世の中を作れば、これがロータリーの目的であると言っています。

これらが私の考えるいわゆる原点回帰というかロータリーの基本的なことであります。言いたいことは、ただお金を積んで寄付するだけがロータリーではない。あくまでも人間修行の場としてロータリーを利用する。その上で余力を持って社会奉仕をしていく。ここが決議 2334 を作った大正 12 年というのはロータリーが分離した時であります。片方で奉仕を非常に主題としていました人達と、精神的な寛容を主題としていた人達がロータリーの中で別れました。片方はロータリーとして残り片方は今ひとつのクラブを作ったということでありまして、あくまでもロータリーというものはお金を積んで奉仕をすることばかりが重要ではないということです。

ここで、今問題となっておりますポリオプラスキャンペーンであります。これは「地球上からポリオを撲滅しよう、これをロータリーの 100 周年記念事業として行おう。」ということでした。ポリオというのはご承知のことと思いますが、糞便を介して感染する病気でありますから、ポリオワクチンを飲ませますとその人の便の中からポリオの菌はなくなってしまいます。ですからここに 100 人の人がいると 90 人の人に薬を飲ませれば 10 人の人がポリオの便をしても感染しなくなるということです。全ての人にワクチンを与えなくてもポリオは撲滅できるという医学的理論に基づいたものです。100 周年記念に撲滅する予定でしたが各国の戦乱や内乱、あるいは宗教的な傾向もあって今でもインドやナイジェリアなどという国では、野生株のポリオから感染して今もって撲滅できておりません。

我々は 1 億 8000 万ドルというお金を世界中から集めてポリオの撲滅を図ろうとしましたが、その時に世界のロータリアンに呼びかけた時は 2 億 8000 万ドル集まりました。こんなにたくさん集まったらポリオは撲滅できると思ったところ、決してそんなに生易しいものではなかった。世界の各地にまだポリオがたくさん発生しました。そこで改めてポリオプラスキャンペーンというものをやりまして、国連WHOと一緒にロータリーも 1800 万ドルの負担金を持つことになって、皆さん方にもご記憶に新しいように3年に渡って1万円ずつだしていただいて、あらためて3万円寄付をつのってポリオを撲滅しようとしたのであります。今もって完全に撲滅できたとは言わないのであります。でも、世界中から麻痺障害後遺症の子供達の数は本当に少なくなって、世界中で今ポリオを発生するのは 60 件とか 50 件とかごく微々たるものになった。人類に対する貢献は非常に高いものがあります。

しかし、これを撲滅するためにいまひとつ協力してくれとロータリー本部は言いたいし、WHOも言いたいのですが、皆様から3万円集めた時に「これ以上は皆様に負担をかけません」と国際ロータリーは約束したものですから、今はWHOに対して国際ロータリーは、「もう金はロータリーではだしません。ご協力はします。」ということで、志あるクラブ、日本でもまだ 10 ぐらいのクラブはロータリアン自らがアフリカに行ったりインドに出向いたりしてワクチンを配ったり、自分達のクラブだけでお金を集

めたり、ということをしています。それが現状であるとお伝えしておきます。

国際ロータリーではこのような大きなプログラムを組んで皆様からお金だけを集めてプロジェクトをやるということは、ロータリー本来の目的から本来はちょっと離れた活動であります。ここ数年大きなテーマを取り上げてロータリーの目的というかプロジェクトにするということは今はしていないです。識字率の向上だとか、そういうことばかり言っているのですけれども、ロータリーというのはただ寄付だけをする団体ではない。そういうことをすると例会をやらなくてよいとかインターネットでメイキャップだけすればよいのだとか、そういうことになってしまいます。今年も規程審議会がありまして、この地区からはリンナイの内藤パストガバナーがご出席になりますけれども、その席におけるテーマも、開発途上国からはロータリーの例会を2週間に1度にしろとか3週間に1度にしろとかというテーマが非常に多く出ておりますが、恐らくそれは否定されるのではないかと思います。

私がロータリーについていつも思っていることは、私がガバナーだった時にいつも皆さんに申し上げてきたことがあります。もしあなたの家庭で奥様や子供達があなたに向かって、「お父さんはロータリアンになってから偉くなったね」と言って信頼されるようになったら、それは本当のロータリアンになったのでしょう、と申し上げていました。ロータリアンとしては日頃の生活の中で心がけたいものだと思います

残りの時間はわずかになってしまいましたが、難しい話はそれぐらいにいたしまして最近の地区の状況についてお話していきたいと思います。

まず、ロータリー財団に対する寄付金は現在免税措置をとられておりません。それは我々が寄付したものはすぐアメリカへいってしまう。アメリカのロータリー本部のプログラムで世界に配られる。ですから日本政府としては日本政府の息がかかったプログラムとか日本としての方針で動くものではない、という理由で免税措置がとれないのです。英国では英国のロータリアンで集めたものは英国でプールして英国のプログラムで配っています。日本もロータリー財団に対する寄与率が全体の 18%ぐらいを日本が寄与しているのですが、日本からの財団に対する寄与も日本財団としてプールして、そのうちの一部は国際ロータリーに持って行くとしても、日本財団としてのプログラムで運営できたらということを今一生懸命企画しております。もしそれができあがれば、皆様の御浄財は米山の寄付と同じように日本人の手で世界に奉仕できるということになると思っています。

それから、先程カンボジアの話が出ていましたが、ラオスにこの地区からWCSで小学校を寄付しました。ラオスという所はロータリークラブができたと聞いておりましたが、間違いでした。ラオス政府は共産党の国で、現在共産党の国は中国とベトナムとラオスぐらいしかありません。それで、ラオス政府はロータリークラブを作ることを承認していません。ですからラオスにできたのはタイのチェンマイにあるロータリークラブの子クラブという格好で作られたわけでありまして、ラオスにできたわけではない。でもそこにこの地区からは小学校の校舎を寄付させていただいて、ついこの前斎藤ガバナーもその贈呈式にご出席になりました。

それからもう一つ報告しておくことは、斎藤ガバナーと次の江崎ガバナーエレクトの年度にこの地区は青森県の2830地区と姉妹提携をいたしました。それをご承知の上で、冬の青森にスキー、夏に青森へゴルフに行くとか、十和田湖に秋の紅葉を見に行くとかいう時は是非ご利用してください。10 人や 20 人でも大丈夫です。地区事務所に青森に行きたいのだけれどもと言っていただければ、姉妹提携をしていますから青森に連絡します。すると向こうのロータリアンが出てきて色々接遇してくれます。ついこの前も青森から皆がやってきて、青森の冬はゴルフができないからゴルフをやらせてくれ、と名古屋に 20 人ぐらいおみえになってゴルフを案内してさしあげたということです。青森地区と姉妹提携をしているということをご理解ください。

次に万博会場跡地の話ですが、万博の時にロータリー館については皆様からの大変なご寄付で立派に完成して遂行することができました。会期中185日ありましたが、その間ロータリー館でひらかれました例会は254例会ひらかれました。そこを訪れた全国のロータリアンの数は2万人に達しました。入場者数が 2200 万人でしたから1000人に一人の割合でロータリアンが万博会場にきたということになります。最初2億8000万円でロータリー館を運営しようとしたのですが、なかなか2億のお金が集まらなくて大変苦労したのです。実は、終了間際に各地からご寄付もあり、企業からもご寄付をいただき、3億 2000万円のお金をいただきました。3億2000万円のお金はロータリー館ではとても使いきれず余ってしまったのです。それでロータリー財団に 1000 万と米山記念奨学会に1000 万を寄付して、皆様お一人ずつに配った立派な写真集を作ってくれました。この25日には、前ロータリー館だったところが公園になりました。その公園は、ロータリーの迎賓館はそのまま残りましたが、迎賓館の前に各地から来た首相が植えていった手植えの植樹があるんです。植樹の森というのができまして、その森の真ん中にロータリー記念館という立派な石碑を建ててくれました。石碑を建てるのは我々の費用で建てましたが。除幕式に参加してきたのですが、本当に良い所で立派なところです。もし機会がありましたらロータリーの記念館の跡、ロータリー博物館の跡が公園になっておりますからお出かけいただければと思います。

時間も来たようですからお粗末でしたが私からの話とさせていただきます。

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

●4月19日(木)　第577回例会

卓話　「福祉関係　特に障害者支援について」

社会福祉法人名古屋ライトハウス　理事　近藤豊彦氏

●4月26日(木)及び　5月3日　休会

●5月10日(木)　第578回例会

「第9回クラブフォーラム/環境保全」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※二週続けて休会です。